

第20回宇宙輸送システム部会 議事録

1. 日時：平成26年11月14日（月） 15：00－16：08

2. 場所：内閣府宇宙戦略室 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、白坂部会長代理、緒川委員、松尾委員、御正委員、渡邊委員

(2) 事務局

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議 事

(1) 新宇宙基本計画の工程表（素案）について

(2) その他

○山川部会長 それでは、時間になりましたので「宇宙政策委員会宇宙輸送システム部会」第20回会合を開催したいと思います。

委員の皆様におかれましては、お忙しいところをありがとうございます。

それでは、早速ですけれども、議事に入りたいと思います。

本日の議題は、新宇宙基本計画の工程表（素案）についてです。

この工程表は、産業界の投資の予見可能性を高めるため、今後20年程度を見据えた上での10年間の我が国の宇宙開発利用の長期整備計画について、線表の形で具体的に提示したものでございます。

それでは、その内容につきまして、事務局より御説明をお願いいたします。

<事務局より、参考資料1、2及び机上配布資料に基づき説明>

○山川部会長 ありがとうございます。

それでは、ただいま事務局から御説明いただきましたけれども、それに関して御意見あるいは御質問等をお願いいたします。

○緒川委員 マイナーな話かもしれないのですが、自立性の確保という言葉が、以前は「自律」だったのが、今は「自立」という字に変わっているのです。これは何か意味があって変えているのでしょうか。

○小宮宇宙戦略室長 法律に合わせました。

ですから、逆に言いますと、前回の計画がなぜか法律と違う字を使っていたので、変なので、一応、それはやはり法律の方が上位概念ですので、法律に合わせたということになります。

○緒川委員 わかりました。

○山川部会長 よろしいでしょうか。他に、とりあえず全体から。どうぞ。

○御正委員 工程表の1ページ目というのでしょうか、表紙の次のページに今後10年間の基幹ロケットの優先的使用の図が入っているわけですし、ざっと数えますと30個あるのかと思います。それで、10年間で30個といいますと、大体平均して年に3機、単純計算ですけれども、今までの議論の中で、大体6機とか7機ぐらいを上げていかないと採算が合わないという議論もあったかと思うのですが、これが優先使用を当然されて、全部国産ロケット、あるいは我々がやっている基幹ロケットがアポイントされれば、ある程度、生産性という部分も確保できるのだと思うのですが、どれだけ優先使用が担保されるかというところは結構大きな問題だと思うのですが、その辺がどういう感じで、他の部会も含めて、議論されているのかなということを御質問させていただければと思うのです。

○山川部会長 基幹ロケットの優先使用そのものに関しては、ここが中心になって議論していきまして、他の部会では特に問題があるとか、そういった議論にはなっておりません。また、優先的に使用するというところで、基本的にはもちろん使うわけですけれども、状況に応じて臨機応変にという部分も言葉の中には含まれていると理解しています。

○森宇宙戦略室参事官 あと、これは政府の衛星のみを書いておりますが、これ以外に民間受注も当然あり得るということです。

○御正委員 そこは、打ち上げサービス会社さんが企業努力でとりなさいということですね。

○森宇宙戦略室参事官 はい。そういうことでございます。

○山川部会長 他にございますでしょうか。どうぞ。

○松尾委員 本文の1ページ目に「2. 我が国の宇宙政策の目標」というものがあって、2ページ目の「(2) 具体的取組」というところで「①宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施方針」と書かれて、幾つか具体的項目が書かれているわけです。

例えば、その中の「ix) 宇宙科学・探査及び有人宇宙活動」。これは最初のところに戻って「2. 我が国の宇宙政策の目標」というところの何を受けていることになるのでしょうか。

○小宮宇宙戦略室長 科学技術基盤の維持・強化です。

○松尾委員 どれですか。

○山川部会長 3番目です。

○小宮宇宙戦略室長 目標の3番目が、科学技術基盤の維持・強化になります。

○松尾委員 それで見ますと、その中でさらにまたはっきりしているものが。

○小宮宇宙戦略室長 それは、価値を実現する科学技術基盤の維持・強化。

○松尾委員 価値を実現する科学技術基盤の維持。それで読めたのですが、そういうことなのですね。

○小宮宇宙戦略室長 はい。そうです。

○山川部会長 今の観点はそれでよろしいですか。

○松尾委員 そう言われればそうかなというところですね。

○小宮宇宙戦略室長 10ページの(3)の②を読んでもいただきますと、我が国の安全保障能力の強化、産業の振興、国民生活の向上、宇宙科学の発展などの観点から云々について、科学技術基盤を優先的に維持・強化すると書いてありますので、そこで受けているということです。

○松尾委員 確認でございます。一生懸命読むと、もうそこしか読めるところがないと思って読みましたけれども、結構です。

それと、本文の23ページでしょうか、将来型輸送技術のところ、「『新型基幹ロケット』等の次の宇宙輸送技術の確立を目指し」というのがあります。目指して再使用型宇宙輸送システム云々と書かれているのですが、最初の「目指し」のところまではどういう意図なのですか。

要するに、新型基幹ロケットというものはもうやることは決まっている話で、後ろに書かれていることは将来型の話ですね。ですから、このところは何かフェーズの違うものが並んでいるような気がしてしましてね。

○山川部会長 いや、新型基幹ロケットの試験機は2020年ごろにやるわけです。それを約20年運用したとしますと、2040年になる。そのころには、その次の世代の輸送系が確立しているだろうと。それが恐らく再使用型宇宙輸送システムであろうという意図です。ですから、これは20年ずれている話です。

○松尾委員 言われてみればそうですがというカテゴリーですね。ここだけではわかりませんね。

それから、有人と探査のところは、小型が5機、中型が3機というふうに、非常に具体的に書かれていますけれども、これは権利と思えばいいのですか。拘束と思えばいいのですか。

○山川部会長 これは昨年、宇宙科学・探査部会で宇宙科学・探査の長期ロードマップというものを基本的につくっておきまして、その中で大まかにはそういう機数といいますか、ペースで進めていくべきであろうといった議論があります。ある程度、それをここに反映させているというのがこの書きぶりにな

っています。

○松尾委員 その時は大まかだったかもしれませんが、こうなってしまうと非常に厳格にそれを適用される可能性はあるわけですね。

○山川部会長 はい。それは宇宙科学・探査部会として、そういう意図があると思います。

○松尾委員 ですから、宇宙科学・探査部会では大まかではなくて、これでいこうと思っていらっしゃるということですか。

○山川部会長 はい。

○小宮宇宙戦略室長 JAXAにロードマップがもう作成されていますが、それを一応、ここにも、20ページにありますように、参考にしながらやる。ただし、御案内のように、コミュニティのボトムアップで決めていきますので、この基本計画で火星に何機というふうになかなか書けないので、機数だけ書いたというのが議論の経過でございます。

○松尾委員 要するに、数字になってしまうと、それは権利として強みになる場合もあれば、今、ボトムアップで何か出てきても、それに対する拘束になることもありますので、ちょっと懸念があるというぐらいのことです。これはこれで意味はわかりました。

○山川部会長 ちょっと言葉の裏を、今、私なりに読んだことを、今の御意見の裏には、もっと活発な活動になる可能性もあるのではないか。それを阻害するのではないか。恐らく、そういう意図ですね。

○松尾委員 はい。

○山川部会長 そういう考え方と、一方で、宇宙科学・探査に関してはさらに厳しい状況になるのではないかという懸念もあり、そのあたりのちょうどバランスをとっているという観点はあると思います。

○松尾委員 おっしゃっていることはわかりましたけれども、こういうものはバランスをとるといえることがあり得るのですか。一方で頑張っただけというのと、片一方で拘束をつけようというものがあって、そのバランスをとると一体、答えは何になるかということがありますが、ここは一言文句を言いたかっただけです。

○山川部会長 そういう御懸念はもちろん、いろいろな議論があるのですけれども、済みません、今日は宇宙輸送システム部会なのですが、宇宙科学・探査部会委員として発言しますと、むしろ、ここまで書き込んでいることの方が前向きに捉えていただいた方がいいのではないかと思います。

○松尾委員 ですから、私の二分法でいけば、これは拘束ではなくて、権利であると考えたいということですね。

○山川部会長 はい。

○松尾委員 わかりました。あと、有人の扱いですけれども。

○山川部会長 宇宙科学・探査に関する話ですか。

○松尾委員 この本文の中に書かれていることです。

国際有人計画についてはということで、ここで取り上げているのは、国際有人計画だけを議論しているのですね。要するに、我が国独自の有人というものは全然視野に入っていないわけで、私は入れろと言っているのではありません。私の有人に対する考え方はよく御存じだと思いますけれども、そういうわけではありませんが、これは探査部会でもこういうあり方でいこうと思ったわけですね。当分、我が国で独自計画はないのだと。だから、ここで問題にするのは国際有人計画だけに目を配っていればいいのだと。

○山川部会長 我が国独自の有人計画に関しては、議論はしておりません。

○松尾委員 していないのですか。

○山川部会長 宇宙科学・探査部会におきましては、そういう話は出ていません。

○松尾委員 賛成だろうと、反対だろうと、この話はいつの間に消えてしまったのかなと、ちょっと不思議な気がします。

○小宮宇宙戦略室長 21ページの国際宇宙ステーション計画を含む有人宇宙活動についてはというふうに表記をしております。今、松尾先生が言われた日本独自の有人宇宙活動もここでバスケットで受けた形にした上で、それについては費用対効果を向上させつつ、我が国が引き続き宇宙分野での国際的な発言力を維持するために、これに取り組むということで、もし我が国独自の有人宇宙計画があった場合でも一応、考え方としてはここに示したという形にはしてあります。

○松尾委員 何か難しい文章が多いですね。

○小宮宇宙戦略室長 申しわけございません。

○山川部会長 ですから、議論はされていませんけれども、文章ではうまく考慮している。そういうことです。

○松尾委員 ですから、どなた様がそこまで気を回して考慮して下さったかという話なのです。部会では全く議論も何もされていないのに。

ここの読み方は結局、国際宇宙ステーションという言葉がありますけれども、実際は後ろに続く、有人宇宙活動について何も形容句がついていないから、これは一般的なことまで読めるのだということですね。

○小宮宇宙戦略室長 はい。そうでございます。

○松尾委員 大変ですね。わかりました。

○山川部会長 それでよろしいという意味ですか。あるいは、よろしくないという意味ですか。どちらの意味ですか。

○松尾委員 いや、これはこんなものでしょう。だって、部会で話が出なかったのですから、どうにもならないではないですか。

ただ、感想としては、不思議な気はしますね。まだ時期ではなかろうという議論もあってもしかるべきですし、いろいろなことがあっていいのだと思うのですけれども、最初から何か国際有人計画に寄りかかってしまうと、その動向次第というの何か情けないような気がします。この部会のことではないから、ここで言ってもしょうがありませんが、そういうことです。

○山川部会長 何とも言えないですけれども、それはそこの部会での話です。

○松尾委員 私は、手続きと申しますか、進め方に言っているのであって、私自身は恐らく、大変これに近い考え方をしている人間だと思います。

どなたかがおっしゃれば、それに触発されて、また何か言い出すかもしれませんけれども、とりあえずは結構です。

○山川部会長 どんどんお願いいたします。他にございますでしょうか。渡邊委員、どうぞ。

○渡邊委員 本文の中に調整中、多くは打ち上げ年度であるとか、運用開始年度であるとか、そういう年度だという御説明でしたが、例えば17ページの気象衛星のところを見ますと、9号機のところまでは年度が入っていますね。その次の気象衛星に関しては入ってなくて、この工程表でもそれは記されていないわけですね。その調整中が確定したら、その確定した年度のところにこれはさらに追加されるという表なのですね。

○森宇宙戦略室参事官 この○年度となっている部分なのですけれども、これは最終的に、この年度が確定するか、書けないというのも中にはあるかもしれませんが、今、一番スムーズに行ったとして、もし書けたとすればというのが割と後ろの方に既に書かれているのですが、気象衛星のこの10機目に関しては、どうやら打ち上げ年度が平成36年より後になりそうなので、ここには書いていないというだけでございまして、もし平成36年より前で、今、○年度になっているのであれば、この中に本日入れられたのですけれども、そういう事情で、気象衛星に関してはそういうことでございます。

○渡邊委員 わかりやすい例かなと思って、今、気象衛星の話をしたのですが、今の御説明ですと、そうしますと平成28年度から平成27年度の間、それぞれ次の年度、内側の年度ですか、その間には気象衛星の打ち上げはないということを行っているのですか。必ずしもそうでないのですか。

○森宇宙戦略室参事官 国交省にも確認をしたのですけれども、今の時点では、平成36年より後になりそうだということでしたので、ここでは入れておりません。

逆に言えば、他の衛星で〇年度になっていても、もし順調に行った場合には、この年度になりそうだというものには既に三角の印を入れさせていただいています。

○山川部会長 この〇年度と本文に書かれているものを、この工程表のここから取りますと、物すごくすかすかになってしまうのです。ですから、〇年度もほとんど、この年度に入っているものは全部書き込んであるという御説明だと思えます。

○渡邊委員 しかし、先ほどの気象衛星のように、この枠を超えるから書いていないものもあるので。

○山川部会長 それはもともと、ここに入っていないので。

○森宇宙戦略室参事官 レンジの外になるのです。

○渡邊委員 過去の例を見ますと、10号機あたりはこの真ん中あたりに必要なのではないかと思うのですが、それも書いていないので。

○山川部会長 でも、それは国交省に聞かないと。

○渡邊委員 必ずしも、この三角の数が衛星数に一致していないのです。今、わかるものを書いたということなのですね。

○頓宮宇宙戦略室参事官 済みません、国交省はこのレンジの外だと言っているので書けないということですね。

○森宇宙戦略室参事官 今のところはそう言っていますので。

○山川部会長 国交省自身が外だと言っていますので。

○森宇宙戦略室参事官 もちろん、工程表は毎年見直しますので、その際に、もう少し前倒しでということがあれば、書き入れるということだと思えます。

○渡邊委員 わかりました。もう一つ、関連で、調整中というのは、それぞれに同じ理由ではないかもしれませんが、主に予算ですか。

○小宮宇宙戦略室長 財政当局です。正確に言いますと、平成27年度の査定マターであるということです。

ですから、査定が済めば、この〇年度というところは数字が入る可能性が高いということです。

○渡邊委員 わかりました。

○山川部会長 そういった意味では、この工程表に関しても当然、そのあたりの配慮をした上でパブリックコメントにかけることになるわけですね。

○小宮宇宙戦略室長 そうです。

それで、パブリックコメントは来週の金曜日の24時、土曜日の0時からかけますけれども、その時点ではまだ多分、査定が終わっている可能性は低いので、そうしますと、今日は割と本音ベースの資料で御議論させていただいていますが、パブリックコメントにかけるものは本文と同様に、査定マターにかかって

しまうものはちょっと年度をぼやかした形の工程表を財政当局との関係ではつくらざるを得ないと思っております。

○山川部会長 他にいかがでしょうか。どうぞ。

○緒川委員 書き方の問題だと思うのですけれども、工程表の表紙から数えると3枚目になりますか、新型基幹ロケットの工程表、矢印が2列で新型基幹ロケットとH-II A/Bの運用があるのですが、平成34年度以降が矢印が2列になっていますので、両方運用するののかということにとられかねないのですけれども、表現といいますか、表記の仕方だと思うのですが、考慮された方がいいのではないかなという提案です。

○山川部会長 両方運用する可能性も排除しないと思います。しかも、それがいつまでに完全に、例えばH-II A/Bが完全になくなるかも現状ではわかりませんので、こういう書き方をしているということです。

○小宮宇宙戦略室長 1年たってはっきりしてくれば、そのところはもう少しすっきりとする可能性はあります。

○中村宇宙戦略室審議官 そこは緑の矢印が斜め上に上がっているところでして、新型基幹ロケットに順次移行というふうに、日本語で注釈をする工夫を考えています。

○緒川委員 よく企業とかがやるのは、ちょっと減らして、こちらをふやしていくというやり方をするのですけれども、これだと本当にこのまま2本立てでいくのだという書き方で、今のように、順次減らして、順次ふやしていくという表現にとれないのではないかなというだけです。

○山川部会長 そこは本文の方とこれと、あわせて読んでいただくのだと思うのです。

今、申し上げた理由で、願わくは早く移行するという事だと思っておりますが、例えば平成36年の時点でどうなっているかというのは現時点でははっきり言えないということで、そのあたりの検討が済んだ段階で、例えばそれを細くしていくとか太くしていくという書きぶりになるかと思っております。

○緒川委員 わかりました。あと、もう一点よろしいでしょうか。

○山川部会長 どうぞ。

○緒川委員 これも書けないからこうしていると思うのですけれども、工程表を一本の線で書いてしまいますと、これは何なんだというものが言われてしまうのですが、これは恐らく、文章でこうしか書いていないから、これもこういうふうにしかならないということでしょうか。

○山川部会長 実態としてはそういう事だと思っておりますが、大丈夫です。

○緒川委員 そういう意味だと思うのですけれども、何か意味があるのかなと捉えてしまうのです。

○山川部会長 項目があることがまずは重要だと思います。

○緒川委員 わかりました。

○山川部会長 要するに、工程表を順次改訂していくといたしますか、毎年見直しをしていくということですので、その検討なり、いろいろなものが進んでいくに従って、これがより明確に、例えばいつまでにどうということを書き込めるようになっていくと思います。

○緒川委員 先ほどありましたように、1年ごとに工程表を見直していくようなプロセスに入るということですね。

○山川部会長 そういうことです。

○緒川委員 それはどこかに、工程表の見直しを行うと大きく書いてあるのでしたか。

○森宇宙戦略室参事官 本文の12ページでございます。

○緒川委員 「毎年」という言葉が入っているのですか。

○森宇宙戦略室参事官 はい。12ページに、本文と工程表の2部構成として、工程表については、毎年、政策項目ごとに進捗状況を委員会において検証して、改訂をするということが書かれてございます。

○緒川委員 わかりました。そうしますと、この工程表の書き方も、何年次というものがどこかに見えていると、後で変化しているのがわかりやすいということ。これも本当に表記の仕方だと思うのですけれども、今の時点だというものがこれだけですとわからないので。

○森宇宙戦略室参事官 最終的には、宇宙基本計画の本文と合わせた、一体のものになりますので、そこにいつ改訂された宇宙基本計画かということをも多分明示すると思いますので、全体を見ていただければわかるようになるかと思えます。

○緒川委員 わかりました。あと、もう一点よろしいでしょうか。

○山川部会長 どうぞ。

○緒川委員 工程表にも、この本文の方にもあるのですけれども、括弧書きで書いてあります省庁がどういう位置づけなのかというのが今のところは何も書いていなくて、唐突にこれが書かれているのですが、これはどういう意味で括弧書きで後ろにつけているのだということはどこかに書かなくてもよろしいのでしょうか。

○小宮宇宙戦略室長 基本的に、責任を負う省庁だと思っています。

○緒川委員 そういうことを、その責任というのがどういった責任なのだというところを書く必要があると思います。

○小宮宇宙戦略室長 それは個々のプロジェクトごとに違うので、それを書き出したら本文がパンクしますので、ただ、明示された省庁は何らかのことをや

らなければいけないということです。

○緒川委員 読めば意味的にはわかるのですけれども、あえてそれを出しているということに「等」が入っていたり、入っていなかったり、いろいろな書き方がされていますので、もう少し言及できないのかなというところです。

○頓宮宇宙戦略室参事官 済みません、先ほどの小宮の話と同じなのですが、この書きぶりの部分は、実態で申し上げますと、要するに「等」の中に入っていない、名前が書いてある省庁とは主として役割を担うことが期待されている省庁なのですけれども、その中に実際には、やりたいと思っている省庁と、我々はやるべきだと思っているのですが、必ずしもポジティブでない省庁が色々まじってしまっていて、その定義を始めますと多分、收拾がつかなくなってきました。

それで「等」は、要するにその他にも関係する省庁があるだろうということで、計画を遂行する段階で入ってもらって、前に進めていくところで関与してもらおう。そういう考え方で書いております。ですから、名前を明記することにごく意味がありまして、今の段階で定義しますと計画自身が崩壊してしまいますので、今、こういう状態になっているということです。

○山川部会長 繰り返しになりますけれども、入っていることが重要という、今はそういう段階です。

○緒川委員 わかりました。済みません、今の補足といいますか、もう一個追加で質問なのですけれども、書かれている省庁以外にも関係してくる部分があるのだという意味で捉えておけばよろしいですか。今、言っている、期待されている、期待している、いろいろな意味が入っているのですが、ここだけがやるのではなくて、ここが主体的に担ってやっていくという。

○頓宮宇宙戦略室参事官 その場合は「等」を入れます。

○緒川委員 では「等」が入っていないと、そこだけがやるというイメージになるのでしょうか。

○頓宮宇宙戦略室参事官 計画の段階では、そういうことになります。

○小宮宇宙戦略室長 すみません、逆に、具体的にどういうことを想定して言っておられますか。何かあるのでしょうか。

○山川部会長 何を、特にどの観点を、もう少し具体的に言っただけですか。

○緒川委員 例えば、前回の部会でも申し上げましたとおり、この工程表の一番最後のページで、本文でもそうですけれども、再使用型宇宙輸送システムの研究開発の部分で、将来を見据えた形で、技術開発だけではなくて、利用を踏まえたものを考えていくのであれば、文科省さんだけではなくて経産省さんも含めたらどうだというのを前回でも提案させていただいたのですが、先ほどの

御表現ですと、文科省さんだけがやるということになってしまうのかなという質問です。

○小宮宇宙戦略室長 そうだと思います。

○緒川委員 研究開発だけ。

○小宮宇宙戦略室長 この10年間ではです。

それで、今、言っておられるのは多分、もっと先の将来の話のことを言っておられますけれども、これは一応、この10年間の責任省庁を書いたつもりです。

○緒川委員 例えば、法整備も含めて考えていく場合には、10年だけではなく、もっと長いスパンで。

○森宇宙戦略室参事官 法整備の項目はまた別で、基本政策部会で議論いただいた項目がございまして、それは例えば24ページでしょうか。「iv) 法制度等整備」ということで、このところに例えば経産省も入っております。

○緒川委員 法整備については、ここということですね。

○森宇宙戦略室参事官 はい。

○緒川委員 わかりました。もう一回戻りますと、研究開発に特化して、この10年が文科省さん中心で進めるという意味なのですね。

○森宇宙戦略室参事官 そういうことになります。

○緒川委員 わかりました。

○山川部会長 あと、私からの提案なのですからけれども、今の再使用型宇宙輸送システムのここに、今年の春に、この輸送システム部会で輸送系の長期ビジョンを策定したのだという、その参考として、その書類をリファーする形にできないかと思っております、それはもう公表されていますので、何か一言、ここに書き加えていただけないかと考えています。

○森宇宙戦略室参事官 矢印の外側にでしょうか。

○山川部会長 どこかに参考という形で。

○森宇宙戦略室参事官 参考として、平成26年4月3日の宇宙政策委員会第21回会合で了承された「宇宙輸送システム長期ビジョン」ですね。

○山川部会長 少なくとも、それでももう少し具体的に知りたい人はそこを見るということになりますので。

○森宇宙戦略室参事官 わかりました。追加させていただきます。

○山川部会長 よろしく願います。どうぞ。

○松尾委員 参考としてそれを引用したことによって、それで何か認められたことになるのですか。これはそういう性格のものでしょうか。こうやってやるのだということを決める時に。

○山川部会長 せっかくちゃんとつくったものですから、それを参考として残しておきたいという意図があります。それがそのまま計画どおりに行われ、予

算がつくという話ではもちろんないです。

○松尾委員 このとおりに行くかどうかは知らないけれども、我々はこんな検討もしたのだということをごここで言うということでしょうか。

○山川部会長 はい。でも、それはこの部会が言わないとどこも言いませんので、ぜひとも入れたいと思います。今のは、入れない方がいいという意味ですか。

○松尾委員 いまいち、言いたい気分がよくわからないのですけれども、これを書いたことは何か、そのとおりに行きますということを使ったような種類の話ですね。ですから、正式な文章では書けなくて、参考であるということを書くというのはそういう意味だろうと思うのですが。

○山川部会長 そうです。

○松尾委員 書くことに何か意味があるのですか。

○緒川委員 この1年ごとに更新されていく時のリファレンス資料として、そこを踏襲しながらまた見直していくという意味では、書く意味があるのかなと思います。

○白坂部会長代理 あとは、やはりゴール、あれは2040年ですけれども、それに至る道筋も一応書いていますので、多分、これを改訂して議論する時のリファレンスとして、では、どういうことを想定して考えていくのかというベースには、もちろん、そちらも変わるかもしれませんが、多分あるのだろうと思います。

○緒川委員 期待値を込めてということですか。

○松尾委員 ですから、それはそういうことを考えているのだということをご肯定として、是としているという意味には必ずしもならないわけですね。

○白坂部会長代理 お金の話は全然別です。

○松尾委員 そうしたいというのはよくわかりました。

○山川部会長 少しでも前向きにという意味です。

○松尾委員 それは結構です。それを足を引っ張る気は全然ありませんけれども、どれくらい実効性があるのかなということが気になります。緒川さんが援軍に立たれているから、お願いします。

○山川部会長 他にいかがでしょうか。よろしいですか。事務局の方で、この中身に関して特に何かございますか。どうぞ。

○頓宮宇宙戦略室参事官 ちょっと余計な話なのですがけれども、先ほど松尾委員がおっしゃった部分で一言あるのは、実効性の話なのですが、実効性の話は、こんなことを私が言うと怒られるのかもしれませんが、ここに書くこと自身が実効性では多分なくて、ここに書いていることを今後どうフォローアップしていくか。

要するに各省との関係で、宇宙政策委員会はどのような役割を果たして、後押しするとか、例えば色々な、戦略的予算配分方針みたいなものを出したりしていますね。そういった今後のフォローの中で実効力を高めていくというところが一番重要なのかなと実は思っています。

書くのは多分スタートラインで、その後、フォローアップの中で色々な形で我々がというのは変ですけども、要するに宇宙政策委員会の御指導のもとで我々がやっていくところが一番重要かなと思っています。

○松尾委員 それはほとんどのものについては適用できる話で、ただ、私が言ったのは、一言で言えば、書くものと書かないものとの境目がどこにあるのでしょうかという話です。ですから、参考資料みたいなものは非常に曖昧なといえますか、微妙な立場にあるような気がするのですけれども、それがどういう立場なのでしょうかとということです。

ただ、そういうことで何らかの意思を表明できるルートができるとすれば、別にこれだけにかかわらず一般性がある何か一つのやり方ではありますので、うまくいけばいいなと私は思っています。

ひょっとしたら、こういうものの書き方についての何か一般的なルールにもなるかもしれません。今は書けないけれども、こんなこともあるのだと言ったりする等。

私は、まだ勘違いしていますか。

○頓宮宇宙戦略室参事官 いえ、そんなことはないです。

○山川部会長 よろしいですか。

今日の議論の趣旨は工程表なのですけれども、工程表に関してはよろしいでしょうか。

では、そろそろ議論は尽くしたという雰囲気になりましたので、特になければこの辺で、この工程表に関する議論は終了いたします。今日は本文に関してもさまざまな御意見をいただきました。ありがとうございます。

この新宇宙基本計画の工程表の素案につきまして、今後、宇宙政策委員会における審議とか、あるいは関係府省との調整等、色々行われると思うのですが、特にパブリックコメントの前までに、要はあと1～2週間の話ということなのですが、本日、皆様からいただいた意見をもとに、どのように反映させていくかに関しては部会長に一任いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(委員首肯)

○山川部会長 ありがとうございます。

それでは、少しといえますか、予定していた時間が半分ほどですけども、

以上をもちまして本日の議事は終了したいと思います。

事務的な事項につきまして、事務局からお願いいたします。

○森宇宙戦略室参事官 本日の御審議、どうもありがとうございました。

次回の開催日程については、追って調整をさせていただきます。

○山川部会長 では、これで終わりたいと思います。

ありがとうございました。